

加藤唐左衛門について

—瀬戸染付焼開発の功労者—

元瀬戸市歴史民俗資料館長 山川 一年

唐左衛門年代記 1

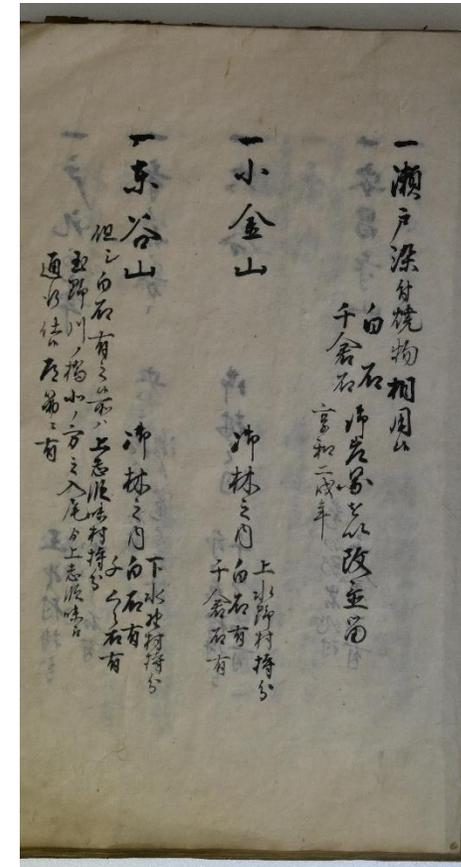
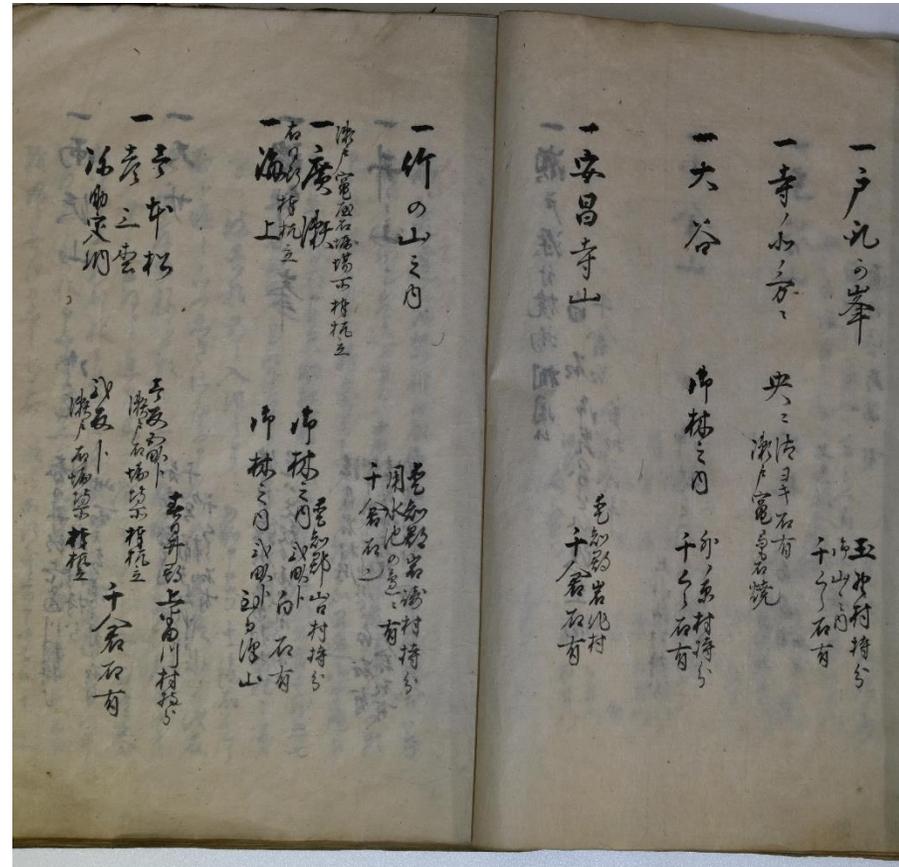
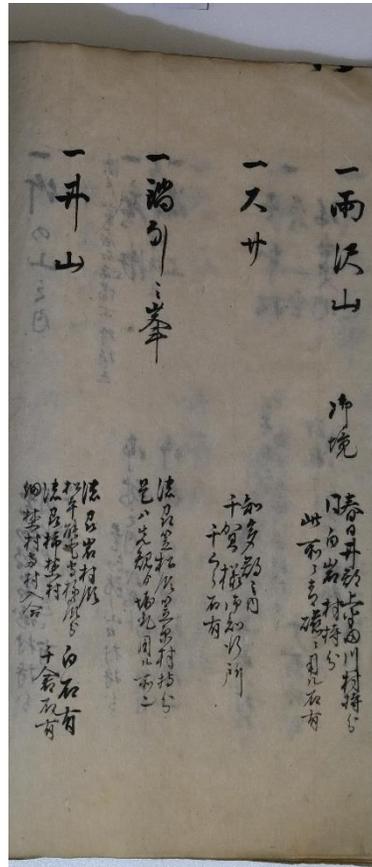
寛政12年	1800	享和3年まで4ヶ年瀬戸村庄屋役
文化元年	1804	窯屋取締役、給金4両・苗字御免
		染付焼御蔵入れ御通帳、「尾張」木印御渡し
文化3年	1806	一代帯刀御免
文化5年	1808	仕法換以来の本業焼物勘定調方取扱いに付、褒美
文化6年	1809	染付焼原材料開発の功績により30両他下付
文化8年	1811	近国近在に石粉搗水車設置、雑用金5両下付
文化9年	1812	本業焼方より離れ、染付焼取締役
文化10年	1813	忰代蔵取締役見習い、給金2両、親子御役勤
文政元年	1818	御小納戸御用達、御目印・差札・御提灯御免
		名古屋御蔵元、諸国支配人と図り永納金制度創設
文政4年	1821	取締役忰本役へ、苗字御免、親子両人相勤

唐左衛門年代記 2

文政6年	1823	瑠璃並びに染付焼植木鉢7つ、中納言・中将様へ献上
		御勘定所・細工所御用達役
文政8年	1825	御深井丸御庭焼仰せ付け
		有栖川親王へ植木鉢献上、染付焼物御用達仰せ付け
文政9年	1826	本業取締役兼仰せ付け、300両御用金上納
		本業・染付窯屋仕送り、売捌人仰せ付け
		御蔵所取建仰せ付け、翌年酒・金子下付
文政13年	1830	400両御用金（無利15年賦）上納
天保3	1832	没、享年61歳（戒名大功得成居士）

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

千倉石掘取場所之事



「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

千倉石掘取場所之事 翻刻

一 瀬戸染付焼物相用候

「白石ノ千倉石御差図を以改置留

享和二戌年

一 小金山 御林之内 上水野村持分、白石有、千倉石有

一 東谷山 御林之内 下水野村持分、白石有、千倉石有

但シ白石有之候所八上志段味村持分玉野川ノ橋北ノ方之

入尾ノ上志段味へ通行仕候差留二有

一 戸取が峯 玉野村持分御山之内、千倉石有

一 寺ノ北ノ方二中央二つよき石有瀬戸窯二而も石焼

一 大谷 御林之内 外ノ原村持分、千倉石有

一 安昌寺山 御林之内 愛知郡岩作村、千倉石有

一 竹の山之内 愛知郡岩崎村持分、用水池の当二有、千倉石也

瀬戸窯屋石堀場所棒杭立

一 広瀬 愛知郡山口村持分御林之内式畝歩白石有

右同断棒杭立

一 海上 御林之内式畝歩、至而沢山

一 吉本松 春日井郡上半田川村持分

彦参松 吉反五畝歩瀬戸石堀場所棒杭立 千倉石有

弥助定納 式畝歩瀬戸石堀場所棒杭立

一 雨沢山 御境 春日井郡上半田川村持分、同白岩村持分

此所二青磁二用儿石有

一 スサ 知多郡之内千賀様知行所、千倉石有

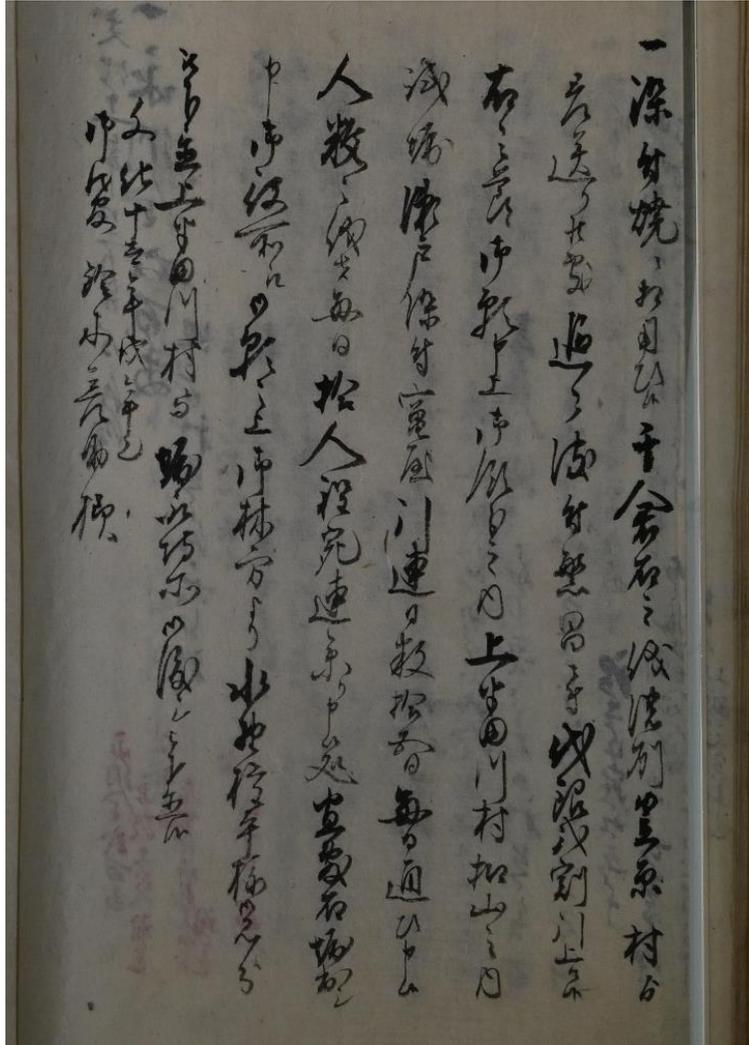
一 鍋なし之峯 濃州笠松領笠原村持分

是八先規ノ堀取用儿所也

一 井山 濃州岩村領、松平能登守様御領分、濃州柿野村

細野村両村入合、白石有、千倉石有

千倉石の開発をめぐる関係資料



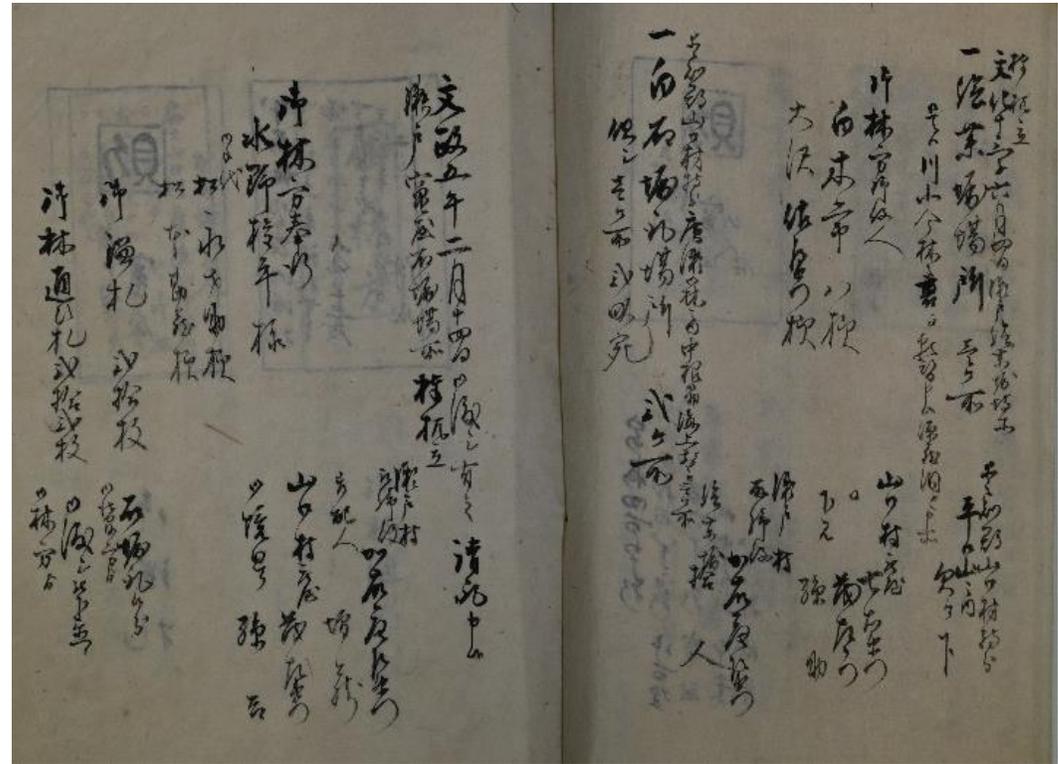
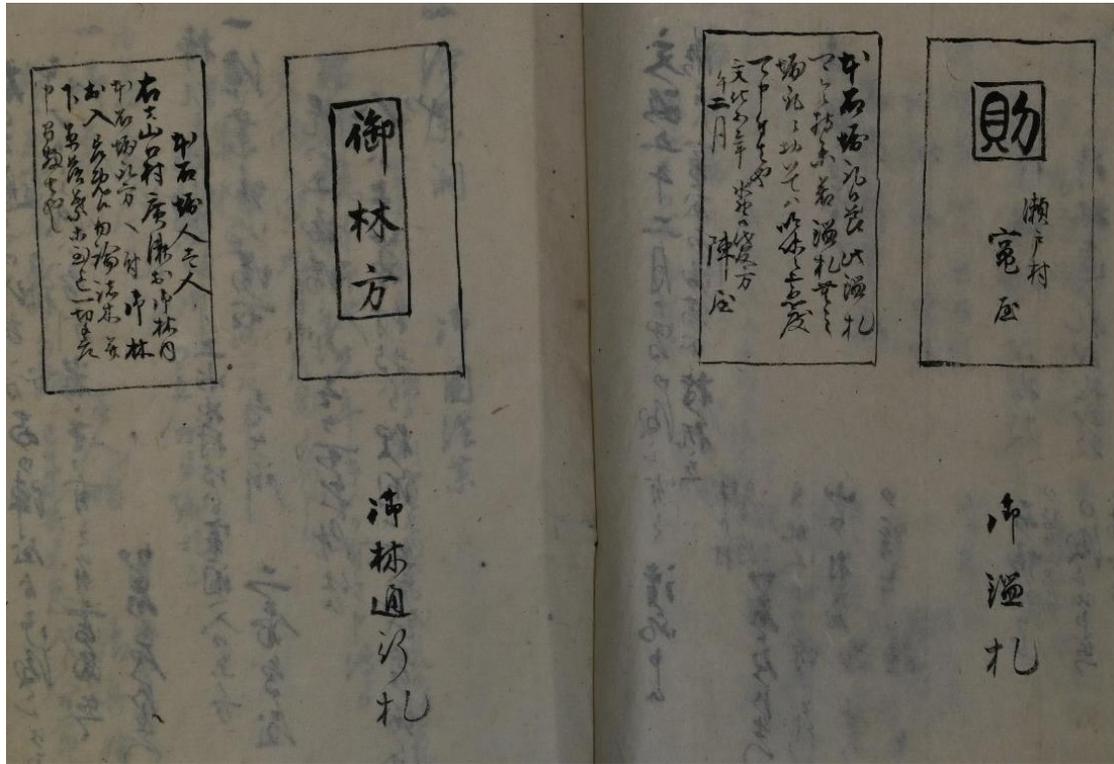
翻刻

一 染付焼二相用ひ候千倉石之儀濃州笠原村に差送り候処、追々染付繁昌二付、代銀式割引上げ候、右之節御願申上御領分之内上半田川村扣山之内、試掘瀬戸染付窯屋引連日数拾五日毎日通ひ申候、人数之儀は毎日拾人程宛連参り申候処、宜敷石掘出し申御役所江御願之上御林方より水野権平様御見分被下置、上半田川村二而掘取場所御渡シ被下置候
文化十一年戌年也

御代官 鈴木彦助様

「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

御鑑札



尾張藩専売制度の展開 1

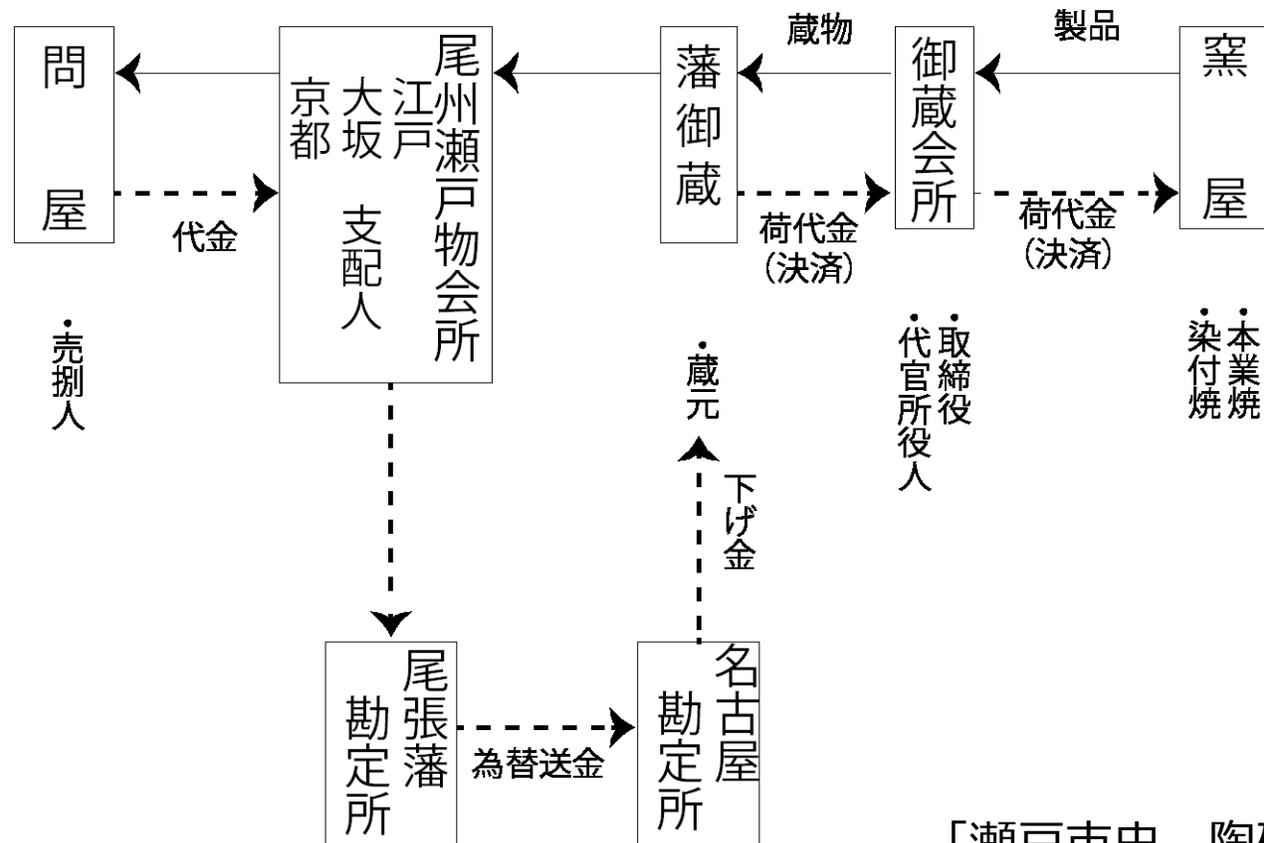
江戸初期		木曾地方下用米制度による樽木の上納義務
享保8年	1723	有松絞会所の設置 – 有松絞の統制開始
		延米会所の設置
明和年間	1764～72	尾西地方に西陣技術導入、棧留縞の生産普及
明和8年	1771	岐阜縮緬「御蔵物仕法」を開始し、京都へ販売
天明年間	1781～89	伊勢から晒木綿の技術導入、知多木綿の生産普及
寛政6年	1794	綿会所の設置 – 綿取引を統制
享和2年	1802	○瀬戸陶器蔵元制度願（実施は翌年）
享和3年	1803	東濃幕府領5ヶ村の美濃焼も尾張藩蔵物扱い
文化3年	1806	藍製作会所（津島）の設置 – 葉藍の統制
文政元年	1818	○窯業生産 – 永納金制度実施
文政年間	1818～30	岐阜縮緬 – 岐阜屋惣左衛門独占権、京都売捌方
		○「瀬戸物仲買株」公認

尾張藩専売制度の展開 2

天保6年	1835	○陶器蔵元制度の再編 – 美濃焼物取締所設置など
天保12年	1841	○株仲間の解散 – 瀬戸・美濃焼物および仲買株は特例
天保13年	1842	国産会所（白木綿）設置、尾西織物専売制
天保14年	1843	木綿の近国売禁止、その他国産品の領外移出統制
嘉永6年	1853	国産会所の廃止
安政6年	1859	開港
慶応2年	1866	国産方の設置
慶応3年	1867	洋物改所（伝馬町）の設置
明治元年	1868	国産元会所（堀川通）の設置

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

尾張藩の陶磁器専売制度



「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

御蔵会所

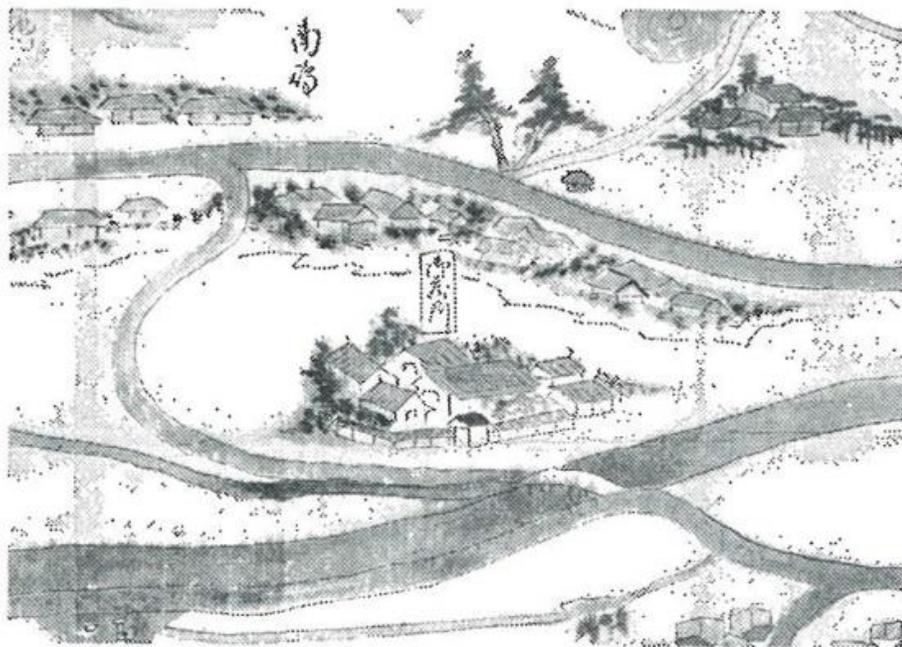


図 6-3 御蔵会所（瀬戸村）
「瀬戸古窯図」（犬山市 田中竹次郎氏蔵）

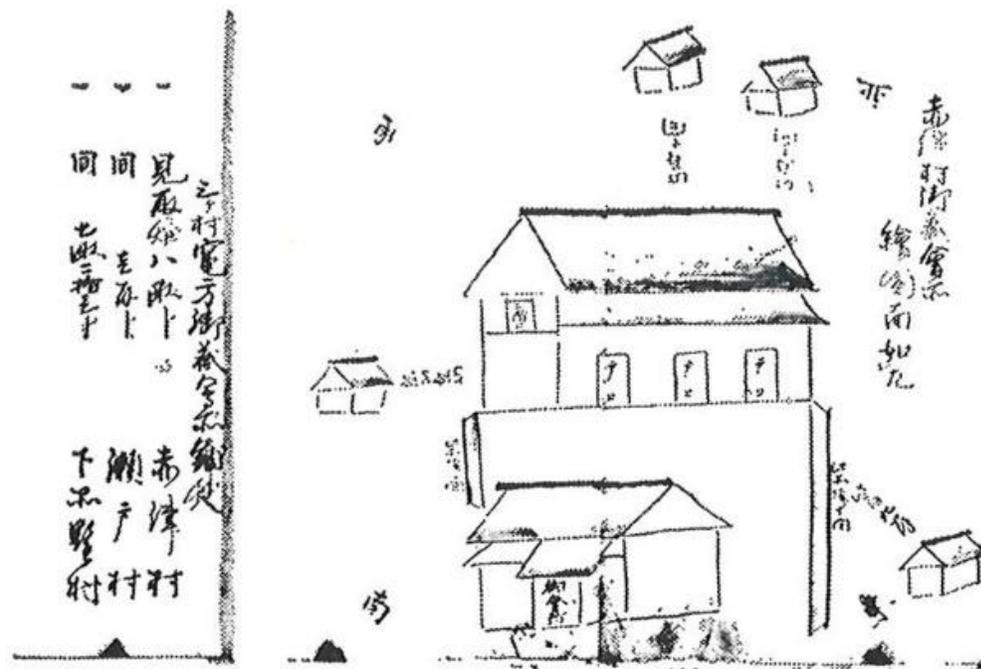


図 6-4 御蔵会所（赤津村）（『仙左衛門家文書』）

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より

蔵元制度の確立 1

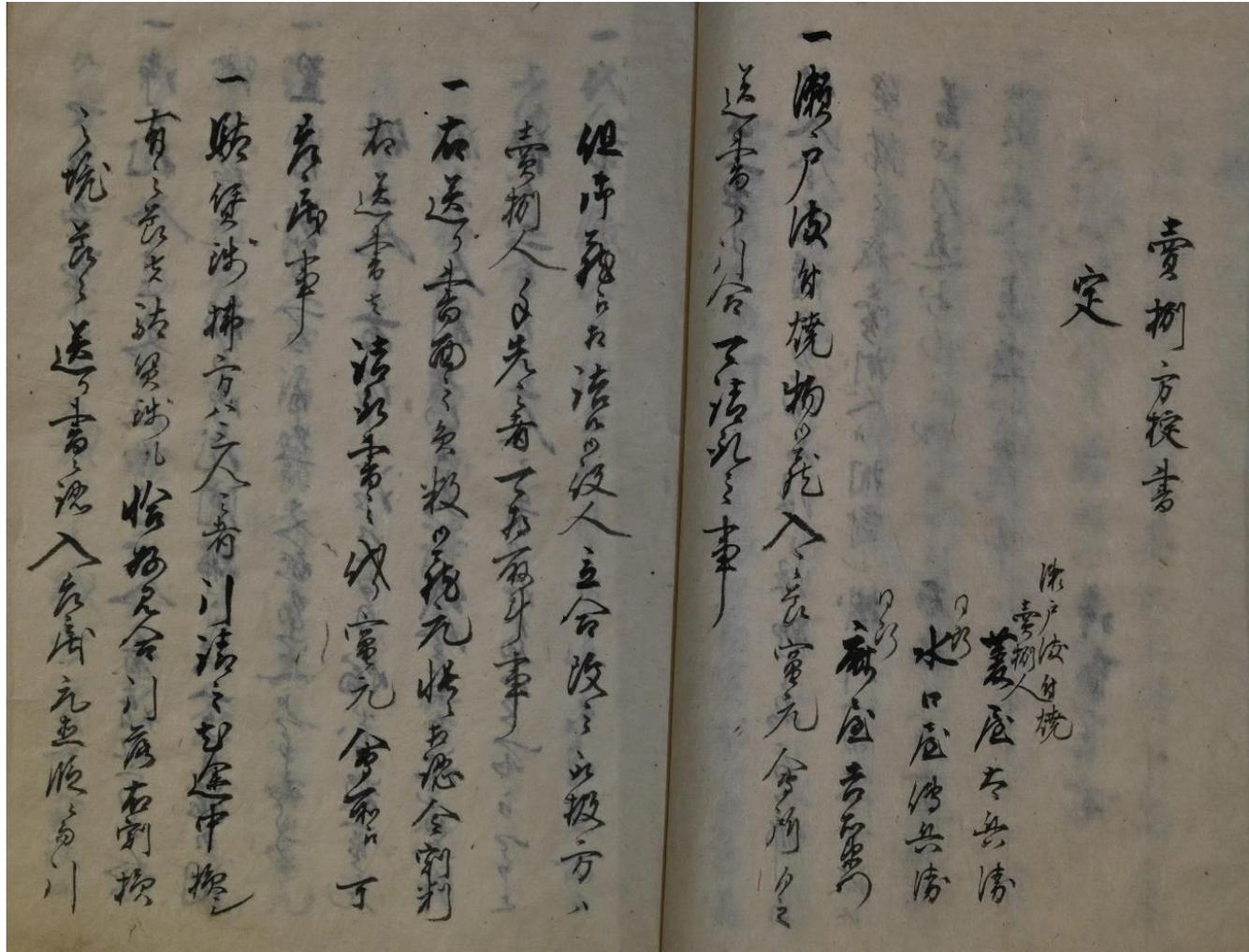
寛政8年	1796	3月	窯口明け、御勘定所・水野陣屋両役人立会い荷物改め
享和2年	1802	6月	名古屋問屋16人連署、蔵物仕法願い出る（『新右衛門家文書』）
享和2年	1802	10月22日	御蔵会所取建方を唐左衛門へ仰せ渡される（『仙左衛門家文書』）
享和3年	1803	9月7日	染付焼物、御蔵物に仰せ付けられる
享和3年	1803	12月3日	染付焼物、広井の御蔵納め始り、焼主は忠治12俵
享和3年	1803	12月5日	染付焼物御蔵納め唐左衛門へ御通1冊・御通箱1荷渡る
文化元年	1804	3月26日	染付焼江戸支配人角屋善右衛門ら3人仕方引合に罷り越す
文化元年	1804	6月	三ヶ村御蔵会所建つ（『新右衛門家文書』・『一満家文書』）
文化元年	1804	7月8日	本業焼物、御蔵納めに仰せ渡される（『一満家文書』）
文化元年	1804	7月17日	窯口明け御仕法始まる
文化元年	1804	10月	染付焼物に用いる「尾張印」、唐左衛門へ木印で渡る
文化元年	1804	12月	加藤唐左衛門ら6人に窯元取締役仰せ付けられる
文化元年	1804	12月	本業・染付とも御蔵物になる

蔵元制度の確立 2

文化3年	1806		取締役4人増え、計10人になる
文化8年	1811	3月	絵薬掘の御鑑札、80枚渡される
文化9年	1812	8月19日	御蔵物御仕法替え仰せ付けられる
文化9年	1812		染付焼下物御払御小屋を川端へ引越し建てる
文化11年	1814	2月28日	大坂支配人より永納金600両（『一満家文書』）
文化12年	1815	3月23日	千倉石の御鑑札35枚、陣屋より渡される 大坂支配人5人より永納金900両締めて1,500両（『一満家文書』）
文政元年	1818		同名古屋蔵元1,000両、江戸支配人3,000両、京都支配人200両
文政9年	1826	3月より	瀬戸物御蔵会所を建て替える

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

売捌方掟書



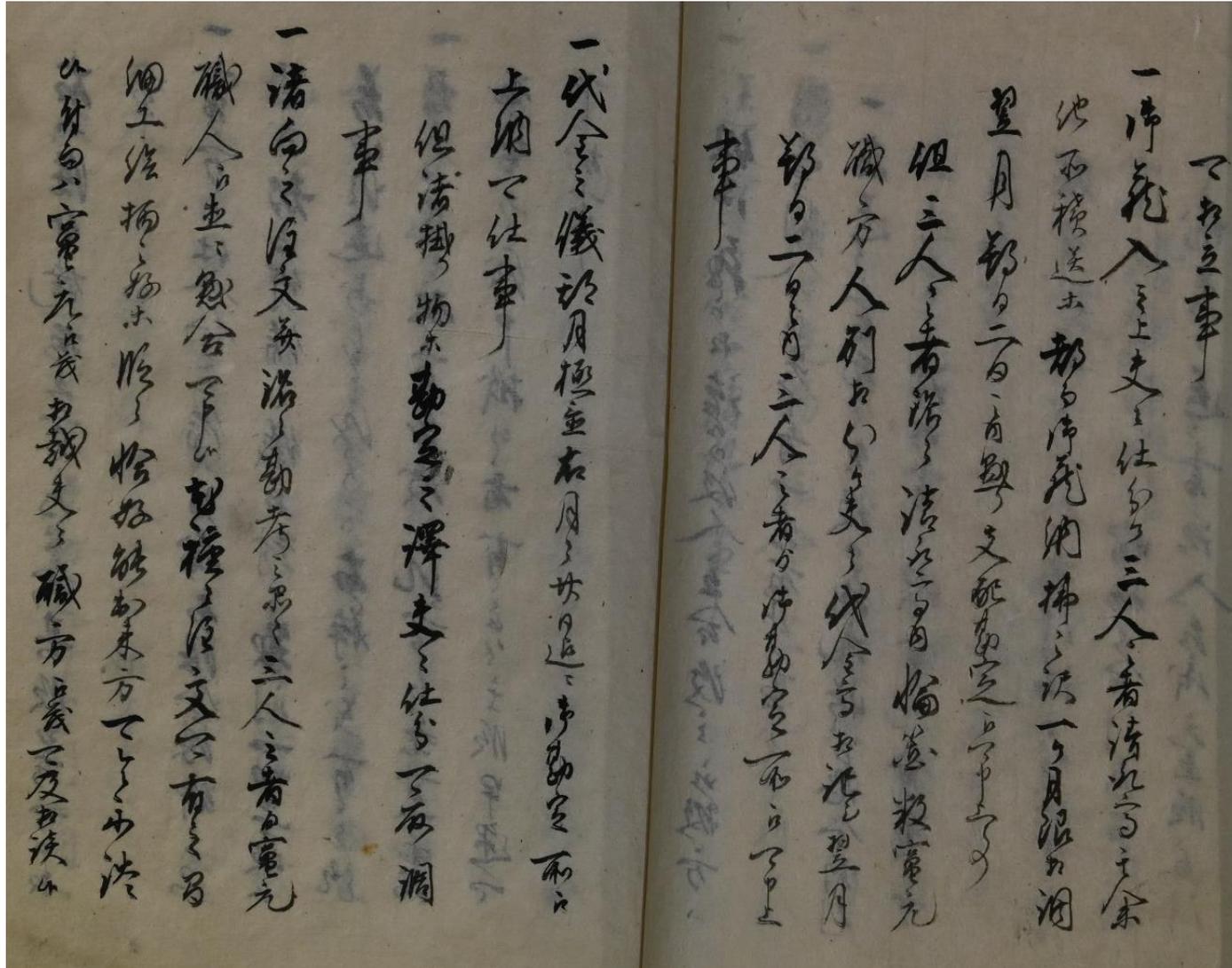
一 瀬戸染付焼御蔵入之節窯元会所より之送書ニ引合可請取之事
 但御蔵へ相詰候御役人立合改之取扱方八売捌人手先之者可為取
 斗事
 一 右送り書面之員数御蔵元帳ニ相認令割判、右送書は請取書之代
 リ、窯元会へ可差戻事
 一 駄賃錢払方八三人之者引受之、尤途中損シ有之節は駄賃錢も恰
 好見合引落、右割損之境、節々送り書ニ認入差戻元直段ニ而引

売捌方掟書
 瀬戸染付焼

売捌人 菱屋太兵衛
 同 水口屋伝兵衛
 同 麻屋吉右衛門
 定

「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

売捌方掟書



可相立事

一 御蔵入之上は夫々仕分ケ三人之者請取高其余他所積送等、都而御蔵納払之訳、一ヶ月限相調翌月朔日二日之内懸リ支配勘定へ可申上事

但 三人之者銘々請取高内輪箇数窯元職方人別相分ケ夫々代金高相記シ翌月朔日二日之内三人之者御勘定所へ可申上事

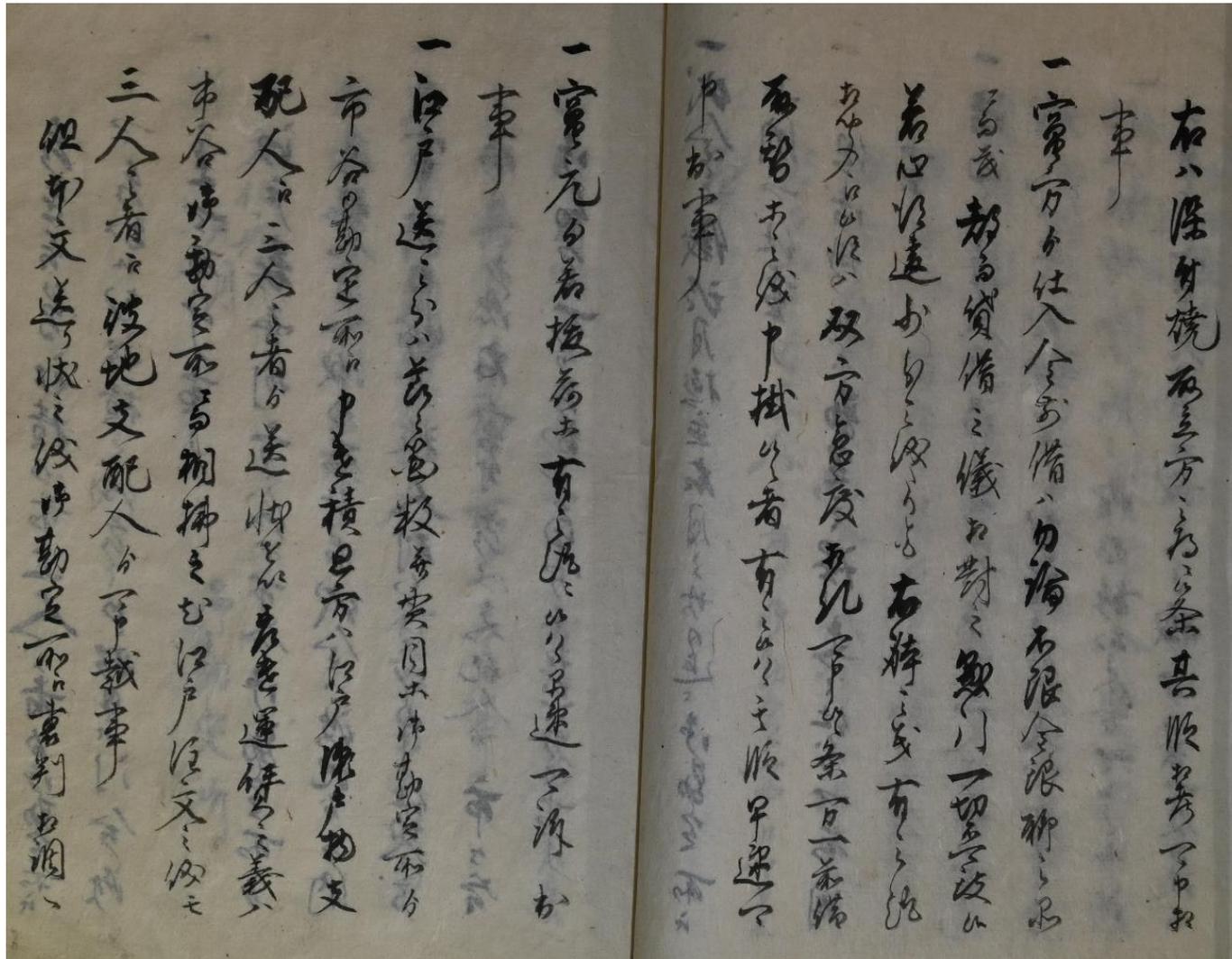
一代金之儀朔日極置右月之廿日迄二御勘定所へ上納可仕事

但 諸掛リ物等勘定之訳、夫々仕分可取調事

一 諸向之注文并銘々勘考之品々、三人之者窯元職人へ直二懸合可申候、尤種々注文可有之有間、細工絵柄之好等、段々恰好能出来方可令示談候付而八窯元へも相越夫々職方へも可及相談候

「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

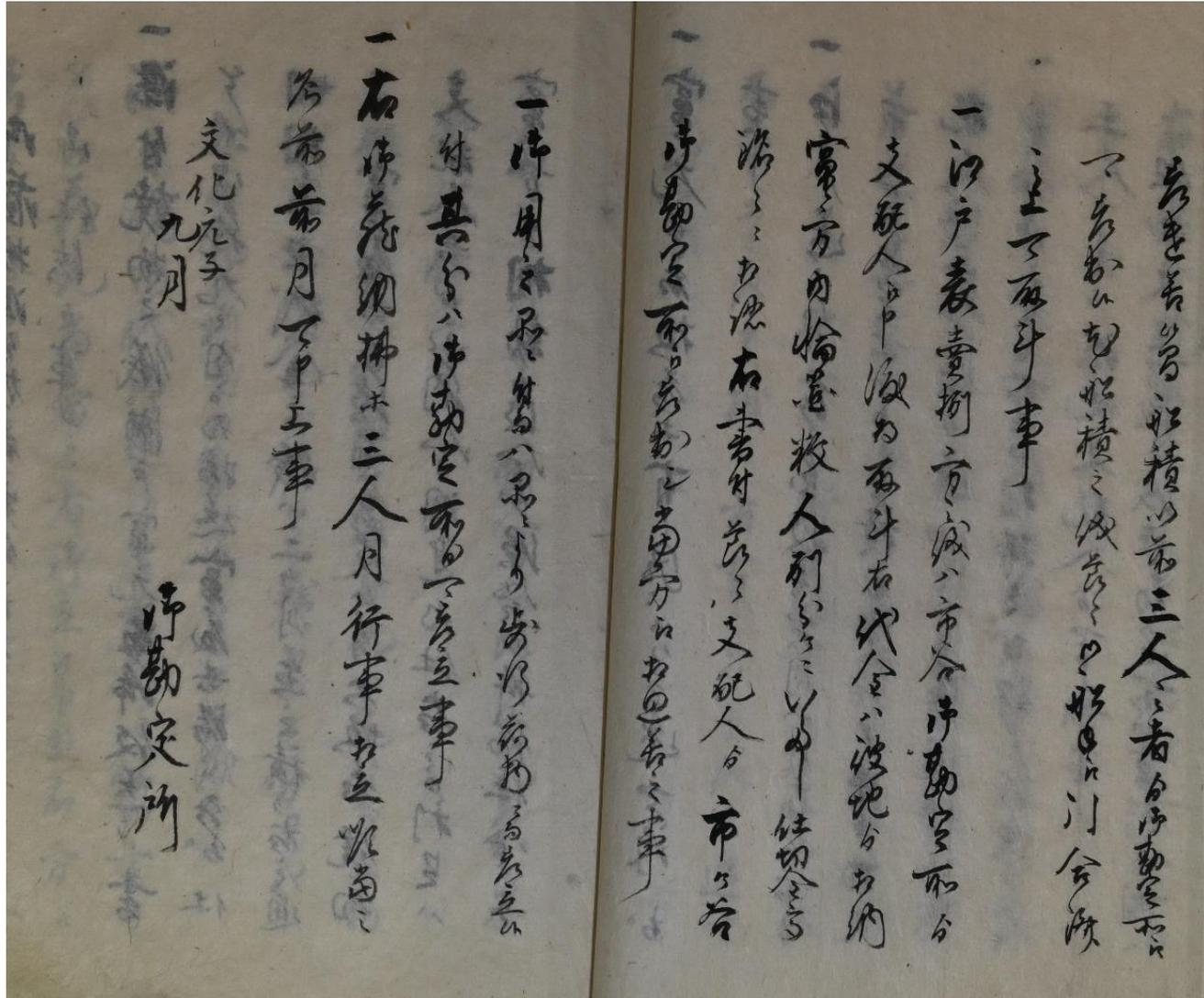
書掇方掇書



右八染付焼取立方之為二候条其段相考可申合事
 一 窯方仕入金前借八勿論不限金銀聊之品二而も
 都而貸借之儀相對之懸引一切不可致候、若心得違
 少分之儀たりとも、右体之儀有之趣相聞へ候ハバ、
 双方急度相糺可申候条、万一前借取替等之儀申掛
 候者有之候ハ、其段早速可申出事
 一 窯元若拔荷等有之趣二候ハ、早速可訴出事
 一 江戸送之分八節々箇数并貫目等御勘定所市谷
 御勘定所へ申遣、積廻方八江戸瀬戸物支配人へ三
 人之者送状を以差遣運賃之義八市谷御勘定所二
 而相払之、尤江戸注文之儀も三人之者へ彼地支配
 人可申越事
 但 本文送り状之儀御勘定所へ裏判相調べ差

「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

売捌方掟書



差遣筈候間、船積以前三人之者方御勘定所へ可差出候、尤船積之儀節々御船手へ引合濟之上可取斗事

一江戸表売捌方之儀八市谷御勘定所方支配人へ申渡為取斗、右代金八彼地方相納窯方内輪箇数人別分ケ二いたし仕切金高銘々二相認右書付節々支配人方市谷御勘定所へ差出シ当方へ相廻筈之事

一御用之品二付而八品々方歩行荷物二而差立候付、其分八御勘定所方可差立事

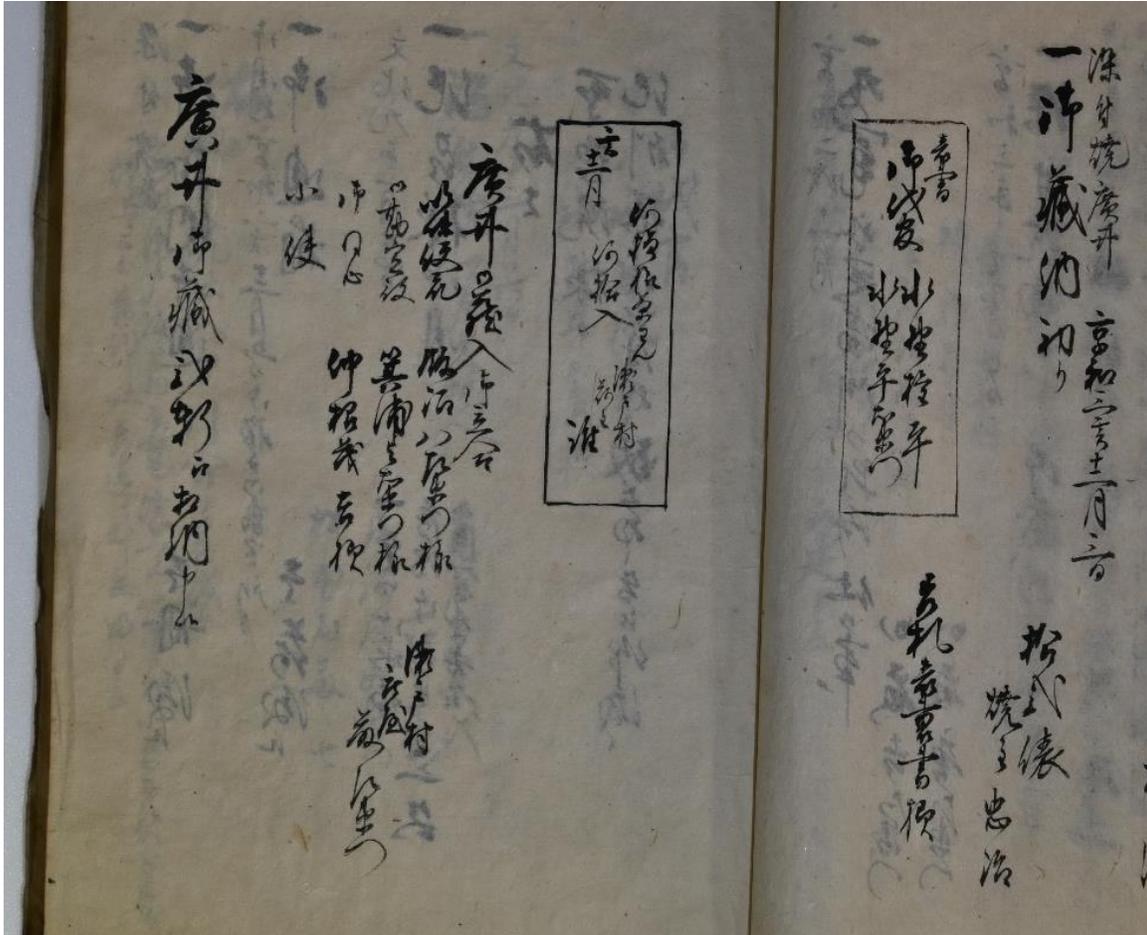
一右御蔵納払等三人月行事相立順当之名前前月可申上事

文化元子九月

御勘定所

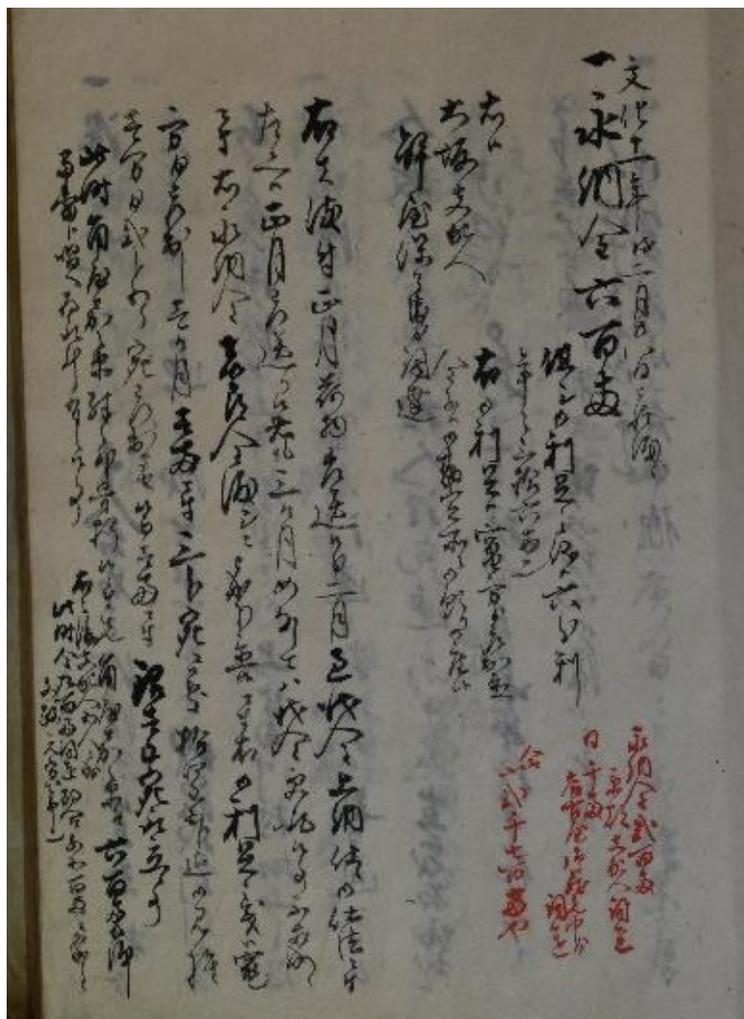
「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

御蔵納め初り



「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

御蔵物仕法



文化十一年戌二月廿八日被仰渡候
一 永納金六百両

但シ御利足之儀八六分利
年々三拾六両也
右御利足八窯方被差出置
金子八御勘定所二御預り
御座候

永納金貳百両
京都支配人調達
同千両
名古屋御蔵元中
調達
合メ貳千七百両
也

右八大坂支配人 解屋保兵衛方調達

右は染付正月荷物差送候而二月辺代金上納仕
候御仕法二付、左候へハ正月差送り候者も三
月〇なしては代金受取候事不相成候二付右永
納金は即金渡シ二被成下置候二付、右御利足
之義八窯方方差出し壹ヶ月壹両二付三分宛二
候処、拾四両五分迄御見捨壹分〇貳分五り宛
差出させ候而壹両二付銀壹匁宛取立候事、此
時角屋嘉兵衛殊之外骨折候二付〇角屋嘉兵衛
へ六百両御渡し当〇と唱へ為取斗有之候事
右之後支配人五人二成此時九百両調達都合千
七百両二相成候 文政元寅年也

「陶器古伝記」 (瀬戸蔵ミュージアム蔵) より

永納金上納額

	名古屋御蔵元	京都支配人	江戸支配人	大坂支配人	合計
文化十一年	麻屋 吉右衛門 水口屋 伝兵衛 菱屋 太兵衛 900両			解屋 安兵衛 600両	1,500両
文政元年	麻屋 吉右衛門 水口屋 伝兵衛 菱屋 太兵衛 1,000両	井筒屋 久蔵 綿屋 嘉右衛門 丹波屋 嘉兵衛 200両	角屋 善右衛門 尾張屋 嘉左衛門 松下屋 藤七 太島屋 市兵衛 3,000両	解屋 安兵衛 鹿島屋 三右衛門 津島屋 卯平 河島屋 仁兵衛 井筒屋 平右衛門 1,500両	5,700両

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

御蔵元商人の推移

(◎ 取締役)

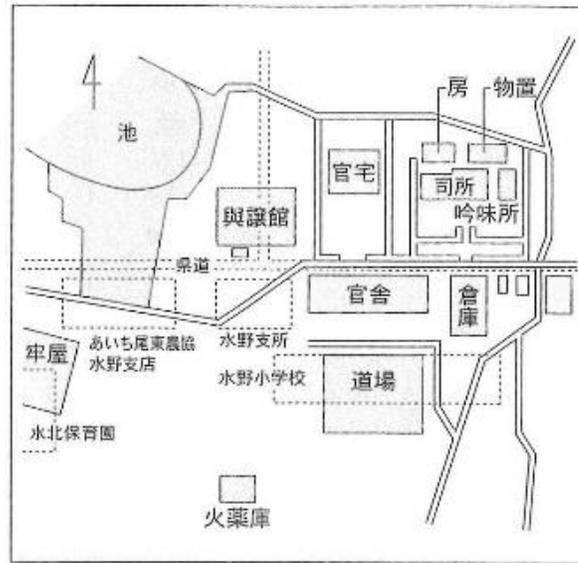
		麻屋	水口屋	菱屋	車屋	麻屋	井筒屋	加登屋	熱田屋	堺屋	久田屋	瀬戸物屋	吉田屋	福島屋	久留米屋	加登屋	山形屋	瀬戸屋	栗見屋	藤屋	土佐屋	瀬戸物屋	竹屋	山陶屋	池島屋	平子	典	拠
		吉右衛門	伝兵衛	太兵衛	利助	禎助	源一郎	嘉兵衛	庄左衛門	与助	伊右衛門	清左衛門	善七	満蔵	辰八郎	吉兵衛	庄三郎	伊左衛門	林蔵	忠左衛門	半次郎	源左衛門	為助	兼助	久蔵	徳右衛門		
文化元	瀬戸染付焼売捌人	○	○	○																								唐左衛門家文書
文政元	名古屋御蔵元	○	○	○																								同上
同 1 3	染付御蔵元				○	○	○																					麻屋吉田家文書
同 1 3	本業蔵元・売捌人							蔵元休	蔵元休	○売捌人	○宗四郎	○	○															新右衛門家文書
天保6	尾州御蔵元				◎				◎	◎	○	○	○	◎														多治見市史
同 1 0	染付焼蔵元				◎	◎			◎																			麻屋吉田家文書
弘化4	尾州瀬戸物御蔵元				◎	◎						◎惣代	○															同上
嘉永6	本業御蔵元				○																							多治見市史
同 7	御蔵元・新御蔵元					○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						円六家文書
安政3	本業蔵元				◎				○			○	○	○	○							○	○					多治見市史
万延元	瀬戸本業焼御締				◎	直助休職			○			○	○	○	○							○	○					同上
文久2	名古屋蔵元				◎	○							○	○	○	○	○											唐左衛門家文書
慶応2	御蔵元																							○	○			瀬戸市史
明治2	染付焼御蔵元													○	○酒村	○	○	○	○	○	○	○					○	麻屋吉田家文書

「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

水野代官所



水野代官所跡

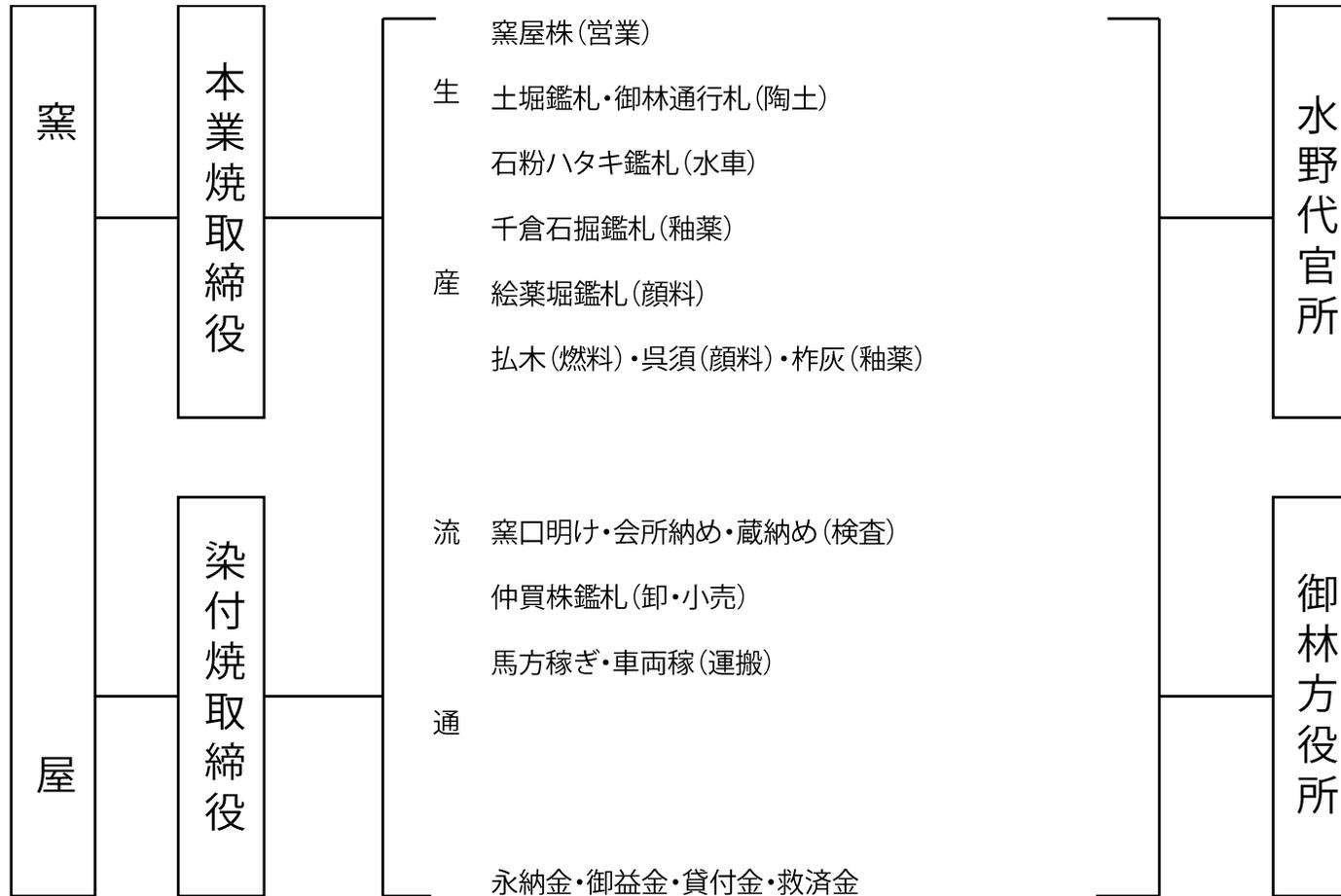


代官所屋敷図



水野代官所勢力図

窯屋と藩役所



「瀬戸市史 陶磁史篇五」より作成

参考文献・参考史料

- 瀬戸市史編纂委員会編『瀬戸市史 陶磁史篇三』瀬戸市、昭和42年
- 瀬戸市史編纂委員会編『瀬戸市史 陶磁史篇五』瀬戸市、平成5年
- 『初期瀬戸染付の謎－加藤民吉とその時代－』瀬戸市美術館、令和2年
- 『川本治兵衛－瀬戸染付の精華そして湖東焼－』瀬戸市美術館、令和3年
- 「陶器古伝記写」瀬戸市蔵